



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995年 10月 18日

2012～13年度テーマ

親睦と奉仕そして前進

編集・発行：情報委員会

－クラブライフを通じて、青春をたぎらせよう－

日時：平成 25 年 2 月 14 日 (木) 12:30～14:00

場所：八王子エルシィ

出席者：67 名 出席率 94%

(会員総数 72 名、休 会 0 名)

会議に先立ち、去る 1 月 24 日ご逝去されました石井充会員と 2 月 8 日ご逝去されました高瀬謙輔前会員のご冥福を祈って黙とうを致しました。

第 208 回例会

1. 開会 飯田例会委員長の司会で開会

定時に例会が始まり、資料の確認が行われた。

2. 挨拶 吉田会長



まず始めに、石井充会員、並びに高瀬謙輔前会員がご逝去されたことは、誠に残念で

す。ご冥福をお祈りいたします。

本日の例会には、多摩プロバスクラブ副会長の増山敏夫様に「ブータン王国」のお話をして頂きます。昨年 12 月には日野プロバスクラブ様が当クラブの例会にお越しいただき、1 月は下田泰造会員が多摩プロバスクラブ様にてお得意の大道芸を披露していただきました。多摩地区、3 つのプロバスクラブの御近所付き合いがこのような方法で進んでおります事は、本当にうれしいことです。

さて今月 28 日より第 17 回生涯学習サロンが始まります。地域奉仕委員会の方々の十分な準備により、企画も充実し、また一般参加者の勧誘に工夫をして頂き会員の皆様の努力のお陰で、新規のサロン会員の参加も増えました。

学習サロンの成功は、参加された市民の方に

「参加して良かった」と思って頂けることです。話し手の方を筆頭に、会員の方全員に十分なホスピタリティを発揮して頂き、学習サロンを心から楽しんでいただけるよう、ご配慮お願い致します。

3. お客様ご紹介・ご挨拶

今日のお客様は東京多摩プロバスクラブ副会長増山敏夫様です。後ほど卓話をして頂くことになっております。

増山敏夫様のご挨拶

先月は八王子プロバスクラブの下田さんの大道芸を半分の時間でしていただきました。大変興味深く、後の話題が絶えなかったです。ありがとうございました。今日はこちらに伺いましてブータン王国のお話を致します。

4. ハッピーコイン披露・バースデーカード贈呈

吉田会長より 7 件のハッピーコイン (後掲) の披露があったのち、池田会員手作りのバースデーカードが、吉田会長より 2 月生まれの 3 名 (敬称略)、石田文彦、鈴木弘昭、根本洋子の各会員に手渡されました。



2 月生まれの方々

5. 卓話

増山敏夫



スクリーンを使用してのお話でした。まず「ブータン王国」の位置ですが、スクリーンで示

してくださいました。

南にインド、北に中華人民共和国、ヒマラヤの小国に行くのにはとてもやっかいで、まずバンコクへ行ってそこから行くようになり、2日かかりでした。

国土は九州ほどの広さで、人口は約70万人、人口密度は九州の20分の1、標高は100m～7,500m、平地が少なく急峻な地形の照葉樹林・森林国、水面も少ない。

ほとんどの方が仏教徒です。2008年に新国王の戴冠式、新憲法発布、初の総選挙を実施し、立憲王制による民主化をめざす。GNP(国民総生産)よりGNH(国民総幸福)を唱え、物質的豊かさより、精神的に豊かな「国づくり」をめざしている。家族や地域は強い絆で結ばれ、国民の97%が「幸せ」と感じている。

先代国王は「GNHはGNPより重要」と提唱し、GNPという経済的数値だけで国力を測るのではなく国民の幸福感をなにより大切にしたいという思いを語った。発展途上国が経済的上昇を目指すあまり、自然や資源を失い伝統文化を大切にできなかった例が多いことを知っている。ブータンは自然環境を守り急ぎ過ぎない開発を目指そう、子供たちへの環境保護教育を義務づけ、民族衣装の着用、国語であるゾンカ語の習得・使用、伝統的礼儀作法の遵守などを国の方針とした。

国の政策として

- ① 経済成長と開発
- ② 文化遺産の保護と振興
- ③ 環境保全と持続可能な利用
- ④ よき統治

が必要である。

GNHとは後ろ向きの哲学ではなく、国の近代

化を進める「開発の哲学」である。ブータンではこの概念を支える最重要のものとして仏教(チベット仏教)があり厚い信仰に支えられ、礼拝を欠かさない。



大震災後の日本へヒマラヤの小国ブータンから



若く爽やかな国王夫妻が見えられたことは記憶に新しいところです。

家族の絆は強く、遊牧民と定住者のいさかいを無くすための祭り等で皆が楽しむ感じです。本当に純朴なようで、国技は弓だそうです。山ほどのマツタケを取ってきてくれてご馳走になりました。しかし現地の人には食べません。「幸せの風吹く秋の夜」ということで終わります。

5. 幹事報告 塩澤幹事

会議に先立ち黙祷して頂きました会員番号4番の石井充さんは、ちょっとお休みしておられましたが82歳で1月24日ご逝去され、1月29日に町田商店で葬儀をしました。会から生花と弔電をお供え致しました。それから退会されていましたが高瀬謙輔さんは、肺がんを患っておられましたが、2月8日に68歳の若さでご逝去され、2月15

日通夜、2月16日告別式、八王子斎場で営まれます。麻雀の好きな方でしたね。非常に残念です。

学習サロンにつきましては会員を増やすために会員の皆さんがPRしていただいたお陰で多くの申し込みがありました。

全日本プロバス協議会関東中央地区交流会が2月20日に開催予定で、同好会的存在のシニア・ダンディーズが招かれ7～8曲披露します。

パスト会長会議が2月21日おこなわれますがまだお申し込みでない会長さんはよろしく願います。

6. 各委員会報告

(1) 例会委員会 飯田委員長

総数72名、出席者67名 出席率94%

チョコレートは立川さんからのバレンタインデーの友チョコです。ありがとうございました。

(2) 情報委員会 寺田委員長

今回の会報は配布いたしました通りでございます。今迄不明確だった会員の顔写真の管理を、今後情報委員が行います。但し写真の撮影は写真同好会にお願いいたします。

(3) 会員委員会 橋本晴重郎委員長

特になし

(4) 研修委員会 土井俊雄委員長

本日の卓話は多摩プロバスの増山さんから「ブータン王国」のお話大変ありがとうございました。

(5) 地域奉仕委員会 橋本綱二委員長

ご報告とお礼を申し上げたいと思います。先ほど会長からお話がありましたように、サロンの一般会員申し込みが概ね98～100名そのうち62名がリピーター、新規参加が38名ありました。会員の多くの方々のご協力のお陰と思っております。各委員会の方々には例年通りのご協力をよろしくお願い致します。野外サロンのご案内をお配りしました。今日から申し込み受け付けますのでよろしくお願い致します。取りあえずお礼とご報告をしました。

(6) 交流担当 浅川交流担当理事

先ほどからお話のありましたように、卓話の交流、同好会の交流、その他学習サロンの開校式にも他クラブの方々が参加をしていただけることになっており、我々が目指しているプロバスの輪

を広げようという意味の輪の広がり大きな成果を上げつつあると思います。来週の20日に関東地区の交流会が多摩センターでおこなわれます、22名の方が参加して頂けることになっております、よろしく願います。

7. 「宇宙の学校」報告 下山運営本部長

去る1月27日に「宇宙の学校」本部会場の最後のスクーリングと開校式を終えまして、今年度の学校を無事完遂する事が出来ました。

桑志高校会場では延べ205組(410名)の参加でした。本部会場では232組(464名)計437組(874名)の参加でした。

1月例会で、本部会場でのスクーリングを八王子テレメディアが取材したデーリーニュースを、DVDの再生でトラブルがありお見せできなかったもので、これをご覧に入れて報告とします。尚、桑志高校会場は第5小学校との地域学校間連携の延長であり、ユニークな取り組みでした。ここには、第5小の校長先生がいつも参観して頂いていまして、小学校現場の先生が「宇宙の学校」をどう評価されているか、永井会員(運営本部員)と尋ねました。一言で言うと、とても高く評価されています。日頃学校では子供を相手にしているので、保護者と子供をセットで勉強する機会は少なく、新鮮だったし、大変参考になった、また教材も解かりやすく面白く夢がある、などの話を聞きました。これから今年度のレポートを馬場会員(情報担当)にご苦勞願って纏めるところです。それではDVDをご覧ください。

8. 同好会報告

茶道、歴史の会、囲碁の会、麻雀同好会、美術鑑賞会、俳句の会、旅行 特になし。

ゴルフの会 米林伸恭会員

ご案内をしてあります通り、単独コンペを4月23日GMGで、第1回目の多摩地区との合同コンペを5月23日相武カントリーで行います。なお第2回目も予定しています。

写真の会 矢島一雄会員

3月14日の例会の時に、同好会のメンバーが日頃取りためた写真を展示いたします。

9. その他 八木啓充会員

お配りしてありますご案内に、「ふるさとの食

を拓く会」があります。ご都合のつく方は直接会場にお越しください。

10. プロバスソング斉唱

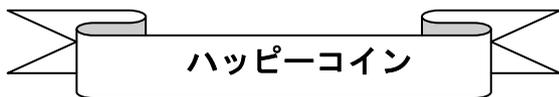
幸せを求めて
長い道を
歩き続けた
それぞれが
あかるいあした



11. 閉会の挨拶 荒正勝副会長



多摩プロバスクラブさんとの交流、「宇宙の学校」の活動の映像と楽しい思い出を胸に閉会にしたいと思います。



◆2013年1月ペルーのマチュピチュへ古代史の旅に行ってきました。76歳の元気いつまで続くのでしょうか。 荒正勝

◆一昨日富士のすそのに行って久々に感動的な富士山に出会いました。みな様に感動をおすそ分けしたいです。よいことありそう。 飯田富美子

◆前は新年早々お休みしてすみませんでした、今年は年女！おだやかな年になりますように。70歳代は和やかに生きたいと思います 有泉 裕子

◆大腸がん検診、セーフ、仏に感謝、2コイン。 土井 俊玄

◆恒例の友チョコを贈ります。今年も元気に仲良くクラブ活動をしましょう。 立川富美代

◆生涯学習サロンの申し込みが多いようで安心しました。 野口 浩平

◆いよいよ学習サロンが始まる。クラブのメインイベントとして成功しますように。 吉田 信夫



「メトロポリタン美術館展の鑑賞」

宮崎 浩平



今年度、最後の美術鑑賞会を12月25日、新装なった東京都美術館で実施した。年の暮であり、時期的に無理があったが、開催期間が来年の1月4日迄であったので行った。参加者は橋本（晴）、野口、高取、八木、有泉、宮城、佐々木（正）、池田、宮崎（順序不同）の9名。メトロポリタン美術館はニューヨークのセントラルパークに、1870年創立以来、「Met」の愛称で世界中の人々に親しまれている。所蔵品は17の学芸部門に約200万点、年間の来場者は500万人を超え、敷地20万平米と、名実ともに世界最大級のスケールを誇っている。今回の日本での展覧会は、その中で12の学芸部門のコレクションから選り抜かれた珠玉の133点によって構成されている。

今回の美術展のテーマは「自然」である。私たちをとりまく自然は古今東西を問わず、人間の創造活動の根幹を担ってきた。本展は、古代メソポタミア文明の工芸品から20世紀の写真作品まで西洋美術を中心にその表現の多様性を表している。

本展は「自然」を7つの章に区分して、第1章・理想化された自然から始まり、第2章・自然のなかの人々、第3章・動物たち、第4章・草花と庭園、第5章カメラが捉えた自然、第6章・大地と空、第7章・水の世界と続いて終わる。それらの中の人々では聖人、英雄、狩人、農民、羊飼いや等が描かれ、動物ではライオン、馬、鳥その他の動物が展示されている。最後の大地、空、海はテーマに相応しく雄大な絵画を展示している。

今回の東京、上野の美術展はスケールを感じ、歴史との出会い、作者の手の感触に触れ合う機会を得ることが出来る。本展について、メトロポリタン美術館館長は挨拶で次のように述べている。自然は、人類の歴史を通じて、常に芸術家の創作意欲をかき立ててきた普遍的なテーマです。私達は可憐な一輪の、エネルギーで力強いライオン、あるいは静かな田園風景に対する心の動きに人類共通の人間性を見出すことが出来ます。時空を超えて存在する芸術作品の中に、日本で皆様が育んで来られたような、自然とのつながりを感じて頂ければ幸いです。



「洋画の楽しみ」

土井俊雄



私の映画好きは、近くの機屋さんへくる組合からの家族優待券をその機屋の長男が、近くの悪ガキどもを5~6人誘って市内の電気館という映画館に連れて行ってくれたことによる。むろん私もその悪ガキの一人で中学1年生ぐらいだったと記憶している。優待券は、2名しか入れないものだったが、その人が、悪ガキ仲間の長男（電気館の映写技師をやっていた）に頼み込み、ぞろぞろと入場した。当時西部劇が全盛で白人の馬車がインディアンに襲われそうになると、騎兵隊が旗をなびかせて救援に来る。すると劇場の観客が一斉に拍手をするといった、いじらしいものだった。後に母親よりタダ見の映画のお礼をしといたよ、と言われ、以後気をつけるようにしたことを覚えている。

皆さんは、スチーブン・スピルバーグといえば、ハリウッド映画の監督だということは、殆どの方がよくご存じのことと思います。彼は、1964年生まれでユダヤ系アメリカ人として数々の作品を手掛け、数々のアカデミー賞を受賞している。また彼は、撮影においてリハーサルを殆どおこなわず、すさまじい早撮りで「プライベートライアン」のような、3時間近い作品を、わずか2ヶ月で撮り終わっている。また多作主義としても有名である。初期の作品は、娯楽性の強いもので、特に「ジョーズ」は、それまで興行収入トップだった「ゴッドファーザー」の記録を破り、スピルバーグの名が世界に知られるようになる。私がお勧めしたい作品は、「シンドラーのリスト」と「アミスタ

ッド」である。彼の作品の中には、アメリカの上流・富裕階級を扱ったものが多い。いろいろなスキャンダラスな事件を通して、アメリカンドリームの実を掴んでおかない破局を迎えるという図式である。皆さんご承知の「警部コロンボ」では富裕上流階級の政治家、弁護士等の事件を庶民の代表コロンボが、あらゆる知恵と推理を働かせて解決・鉄槌を下すという筋書きである。またもう一方で、出自がユダヤ人であるがため、ナチスドイツによる迫害場面の描写は誠に厳しいもので、思わず目を覆いたくなるような場面の連続が、「シンドラーのリスト」である。この映画は、彼らユダヤ人がクラクフの収容所でソ連連絡将校による解放宣言のあるまではモノクロで撮影され、解放され各自がイスラエルに帰るシーンとシンドラーの墓前にぬかずく場面はカラーである。生への執念と生きるための努力の場面は陰鬱なモノクロで効果が出ており、解放の喜びはカラー撮りが120%の効果を出している。スピルバーグの演出に脱帽である。

1939年ドイツ人実業家、オスカーシンドラー（リeam・ニーソン）が、ポーランドの古都クラクフにやってくる。野心家でナチス党員の彼は巧みな話術と賄賂を使ってドイツ軍の上層部に取り入り、たちまち軍需工場で成功を収める。彼が雇っていたのは有能なユダヤ人会計士イザック・シュターン（ベン・キングスレイ）のほか賃金の安いユダヤ人労働者だった。やがてユダヤ人の迫害がエスカレートし、彼らが強制収容所で恐ろしい残虐行為の犠牲となっていくのを目のあたりにしたシンドラーは、ユダヤ人を助けようと収容所所長アーモンゲート（レイフ・ファインズ）に渡すためのリストを作り始める。第2次大戦中1,200人を超えるユダヤ人の命を救った物語である。彼は、10年越しの企画によるこの作品で、作品賞ほか7部門でアカデミー賞に輝いた。この作品を通してスピルバーグのヒューマニズムと観客に訴えたい映像を人間の尊厳ぎりぎりの線まで描きつくした感があり、随所に目をそむけたいような場面がそれである。彼は初期のころから製作総指揮にキャスリーン・ケネディを据え、作品に共同で取り組むと同時にキャストオーデ

イションにも必ず同席している。この映画2作品は、いずれも1,500円程度で手に入るDVDである。見終わった後で、①クラクフに送られる女性ユダヤ人の貨車が間違っ、アウシュビッツに送られ、身の回りの物すべてはぎ取られしかも髪の毛も短く切られ、ガス室へと追い立てられ一瞬照明が切られた時、覚悟をしていたにもかかわらず恐怖の声があがった。しかしシンドラーが間違っ送られたアウシュビッツのユダヤ人女性を呼び返すことをナチ高官と決めた瞬間、ガス室のシャワーよりお湯が出たことで助かったという思いと、うれしさが充満した場面は忘れられない。②シンドラーが工場を復活させ、一儲けしようと考えていた彼はユダヤ人と付き合ううちに儲けより一人でも多く生かしたいという気持ちがイザック・シュターンに伝わる場面も秀逸である。③シンドラーは、大戦後結婚にも資産形成にも失敗するが、名誉国民として呼ばれたイスラエルで没したが、クラクフ出身のユダヤ人よりその墓石にお参りするものが列をなし、絶えることがないと伝えていた。次に前段でご紹介した「アミスタッド」について少々感想を述べてみたい。この映画の舞台は1830年後半から1840年ころである。キューバ沿岸を航行中のスペイン籍の商戦ラ・アミスタッド号（友達を意味する）で起こった事件で、船内のアフリカ人奴隷が反乱をおこし、船を乗っ取った。その後彼らはアメリカ、ニューヨーク州ロングアイランド近辺にてアメリカ海軍により逮捕、拘留された。この事件のアメリカでの裁判は、「アミスタッド号事件」として大きく注目を集め、奴隷廃止運動を前進させる結果をもたらした。1840年連邦予審法廷はこれらのアフリカ人たちについても、もともとアフリカ大陸からの移送が非合法であったと認定し、彼らは法的に奴隷でなく自由の身にあると認めた。1841年3月9日合衆国最高裁判所によりこれらアフリカ人は、故郷に帰還した。特に驚愕の場面は、イギリスの軍艦（イギリスでは、当時奴隷売買を禁じていた）がアフリカ奴隷海岸の港より西インド諸島周辺までを警戒し、奴隷売買の密輸を取り締まっていた。奴隷船は、イギリスの艦船を見かけると、積み荷としていた奴隷を鉄の鎖で30人単位でくくりつけ、

先端の大きな網に石ころを詰め、海に引きずり込んで殺した。なんとも痛ましい光景である。またアフリカ黒人がアメリカの官憲によって裁判を受ける時アフリカのことばが判らず苦勞した点、黒人奴隷のリーダー・シンケの名演技。裁判におけるモーガン・フリーマン、アンソニー・ホプキンス、マシュー・マコノフィーといった名優たちの演技が素晴らしく、いつまでも記憶に残りそうだ。

俳句同好会便り 河合 和郎

私の一句～2月の句会から

季節は春。兼題は「猫の恋」。句材としては面白いが、少し戸惑いも。全体に佳句多し。

雪かきや隣近所の顔合はせ 馬場 征彦

ご近所同士のお付き合いの微妙な間合いを雪掻きに絡めて表現。味わいのある一句。

薬団ひ薄紅ひきし寒牡丹 渋谷 文雄

うまい句。寒牡丹の楚々とした姿が目浮かぶ。日頃の観察力を発揮した写生句のお手本。

深雪晴われを吸ひ込む空の青 石田 文彦

雪晴れの紺碧の空に思わず吸い込まれそうな感覚。心の若々しい感動が伝わってくる一句。

塀の上踏み外すなよ浮かれ猫 田中 信昭

軽妙洒脱な一句。“人もまた”という警句にもなっている。俳諧味に富んだ秀句。

節分の豆も食らへぬ歳数へ 飯田富美子

作者は女性。ずばり現実を指摘され、改めて老いの悲哀を実感させられた。うまい句。

淡雪を雨だれにして陽が昇る 東山 榮

句会の前夜に雪が降った。その朝の実景を巧みに言葉に乗せた。リズムのいい句。

星凍る夜の静寂の深々と 阿部 治子

凍て星が冷たく煌めく夜の情景を詠んで秀。一点集中の句材の扱いが成功している。

恋猫の切々と鳴く闇深し 河合 和郎

恋の闇路は猫も人も同じ。あの悲しげな声を聞きながら、恋の成就を祈らずにはいられない。

編集後記：

この208号をお届けする頃には遅かった梅の花も満開になっていることと思います。今年ほど春の訪れが待たれた年は無かったかも・・・
有泉裕子